

宝の海をいつまでも

佐賀県有明海漁業協同組合 大詫間支所女性部
西村 美智子

1. 地域の概要

私たちの所属する佐賀県有明海漁業協同組合大詫間（おおだくま）支所は佐賀県南東部に位置する。

東に筑後川、西に早津江川に囲まれた三角州にあり、南半分は佐賀市川副町大詫間地区、北半分は福岡県大川市大野島地区がある非常に珍しい地域で、一つの島に二つの県がまたがっているのは全国でここだけである。

昔は渡し舟で行き来していたが、昭和58年に作られた川副大橋や、早津江橋、新田大橋と三つの橋があるため交通の便がとても良くなった。

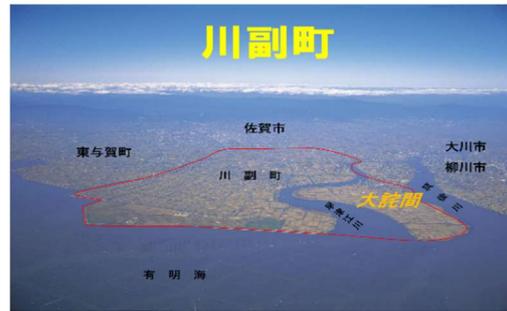


図 1

2. 漁業の概要

令和5年4月現在、正組合員131人、准組合員2人で構成され、海苔養殖が主幹漁業である。

3. 女性部活動

大詫間支所女性部（以下、女性部）は現在、部員数61人で活動を行っており、主な活動としては4月に願成就、貯蓄推進、わかしお石けん利用推進、7月には海苔消費拡大に向けた取り組みとしてお中元商品の推進、8月に祈願祭を行っており、海苔養殖時期の生産業務では帽子、作業着の着用を徹底し異物混入防止に努めている。また、年6回ほど漁港の清掃活動を行っており、環境問題に取り組んでいる。

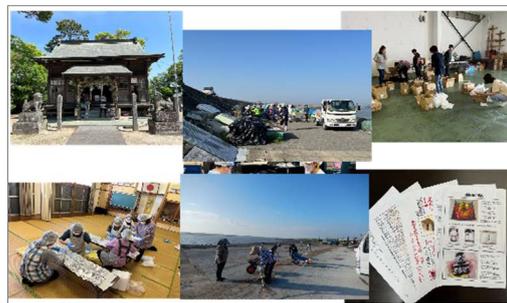


図 2

4. 環境問題に向けた取り組み

女性部活動のひとつ、海を守る運動。

佐賀県の協同組合女性組織主催の「水と環境を守ろう協同組合女性をつどい」で学んだ「SDGs」が目指すものの一つに「海の豊かさを守ろう」という目標がある。

この目標は私たちの「子供、孫そして次世代へずっと豊かな自然や美しい水、海の環境を残していきたい」という思いと重なるものである。

最近、一般のスーパーの店頭で、シミも綺麗にとれたり、より安価で便利な合成洗剤が並んでいる。便利な一方で、合成洗剤には海や人体への影響もあるとされている。使用すると、人体には手荒れや湿疹などを引き起こし、ねずみを使った実験では、内臓障害の原因になったり、精子が破壊され、胎児に影響を与える可能性があることが証明されているようだ。また、魚の水槽に合成洗剤を入れた実験では、エラの細胞が破壊され、魚は呼吸ができなくなり死んでしまったが、天然石けんを入れた方は時間をおいても魚に異常がなかった。さらに、水に溶け込んだ合成洗剤は水を浄化する働きを持つ細菌やイトミミズなどの微生物の活性を失わせてしまい、本来自然が持っている水の浄化作用を弱め、海や川の汚染を進ませ、海苔の芽など海や川の発育初期のものは大きな影響を受けてしまうという報告もある。

合成洗剤の怖さを改めて感じ、今後どうやって海を守っていくかを考えたときに、女性部活動の一環である環境に優しい「わかしお石けん」に注目した。

私たち女性部は、約65年前、前身である大詫間漁協婦人部が発足して以来合成洗剤追放に努め、主原料に食用にもできる天然油脂だけを厳選して使われているわかしお石けんを推進、使用している。

わかしお石けんの商品を使用していく中で、毎日の家事に役立ち、簡単かつ綺麗に使用できることを多くの方に知ってもらえれば、女性部だけでなく一般の方にも使用してもらいやすく、環境の改善にもつながると考えた。

(1) 実践活動

年2回、わかしお石けんの注文を全部員分取りまとめ、石けんを日々の家事に役立てている。しかし、ここ数年は部員の世代交代もあり、洗剤などは一般のスーパーでも安価で便利なものがたくさんあるため、わかしお石けんの使用率は減少傾向にあった。



図 3

そこで、まずは次世代の人たちにわかしお石けんの商品、環境への取り組みなどについて知ってもらおうと思い、アンケートを実施した。

1. 使用しているわかしお石けんの商品名と具体的な使い方を教えてください。
2. 気に入っている商品がある場合、商品名と具体的な理由を教えてください。
3. 値段は妥当か？使用してみて改善してほしい点があれば教えてください。

という内容にした。

良い意見の中で、最も多かったのは、「肌に優しいのがうれしい」とのことだった。

合成洗剤は、毎日使用していると手が荒れたが、わかしお石けんは使用し続けても、手荒れなどが少ないという意見が多数集まった。



図 4

一方、改善してほしい点などの項目では、「洗濯洗剤が洗濯物に白い粉として残っている」や「金額が高い」などが挙げられた。

また、わかしお石けんをもっと簡単に使用方法なども知りたいという多数の意見もあった。

このアンケート結果をもとに直接、製造元の株式会社エスケー石鹸の担当者の方へ利用者の声を届け、意見に対して回答を頂いた。回答の中には、便利な使い方などが記載され、今まで知らなかった使い方もあった。

それを参考に、今度は部員を台所・お風呂・洗濯の3つのグループに分けて、一定期間各自で決まった商品を使用してもらい、再度アンケートを実施した。



図 5

アンケート内容は、それぞれ商品を使用してみて、よかった点、悪かった点、工夫した使い方などの意見を記入してもらった。

その意見をもとに、商品のパンフレットを作成し、部員全員へ配布した。

効果として、活動前は洗濯用液体石けんの利用者がとても多く全体の60%を占めていたが、パンフレット配布後は35%になり、他の商品の注文が増えた。

(2) 推進活動

昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から約3年間全部員で揃っての活動を行うことがとても厳しく、計画していたわかしお石けんの講習や実践も行えない

状況が続き、次に私たちにできることは何か考えた。

私たちが行っている活動を一般の人にも推進しわかしお石けんを使用してもらい、一人ひとりの意識改善につなげていきたい。

まずは地元から。

この思いで大詫間小学校と博愛の里こども園へハンドソープと浴用石けんを寄付し、子供たちや先生方を対象に使ってみた感想やアンケートの協力をお願いした。



図 6

小学校では、「川や海は綺麗だと思いますか？」の問いに対し小学校低学年は「いいえ」が27%、高学年では87%の回答だった。

「いいえ」の理由で最も多かったのは、「ゴミが沢山流れているから」、との回答があり、小学生でも分かるほど環境汚染問題は進んでいると感じさせられた。

「わかしお石けんを使ったことがありますか？」の問いに低学年・高学年共に、「はい」が18%だった。

「わかしお石けんで川や海が綺麗になれば使えますか？」の質問に対し低学年77%、高学年85%が「はい」と回答し、理由の多くが「川や海が綺麗になれば、魚がすめるから、みんなが自然と共に暮らせるから」だった。

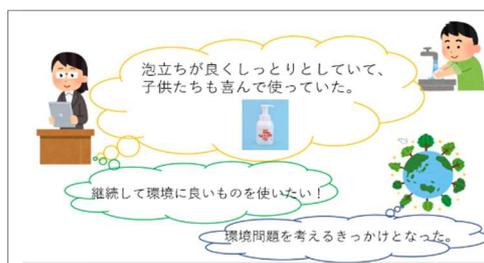


図 7

先生たちからの意見では、「泡立ちが良くしっとりしていて、子供たちも喜んで使っていた」「肌に優しいので安心して使えた」で、そのほかには、「海洋汚染が深刻な問題になっている中、私たちの暮らしの中で発生したゴミにより海洋生物にも大きな影響を及ぼしていることに、心が痛む。環境問題・生活排水による汚染は理解していたが、実際に行動していることはなかった」「環境問題を考えるきっかけとなった」という回答だった。

学校では子供たちがゴミのない綺麗な海にしたいと学習発表をし、学校としては環境問題に自発的に取り組むように指導する、とのうれしい回答を頂いた。日常の手洗いが欠かせない今、肌にも環境にも優しいわかしお石けんはとても喜ばれた。



図 8

また、佐賀市健康づくり課が主催の健康料理

講習会が地元、大詫間公民館で開催されており、役員で参加し、そこでも利用推進を行い、商品を寄付した。

新型コロナウイルス感染症の影響で約3年間中止になっていた佐賀市観光潮干狩り事業を今年4年ぶりに開催することが決定し、私たちはここでも一般の方への推進活動とわかしお石けん・環境についてのアンケートへの協力をお願いした。



図 9

「わかしお石けんを知っていましたか？」の問いに対して、100%全員が「いいえ」との回答だった。

「わかしお石けんで川や海が綺麗になるなら使いたいですか？」の問いには、全員が「はい」との回答だった。

中には「SDGsに貢献ができ、海の生き物を守りたい、佐賀の宝の海を守りたい」との回答をもらった。

アンケート結果の通り、わかしお石けんのことは知らない人たちがばかりで、商品の推進には力が入った。



図 10

子育て世代のお母さんたちからは、「肌にも環境にも優しいんですね」と商品を手に取り、興味をもっていただいた。「わかしお石けんを使って川や海が綺麗になるなら一石二鳥だね！」「学校でならったSDGsだね」と親子の会話もあった。

また、私たち独自で作成した一般の方向けの商品案内パンフレットと、試供品として女性部でも評判が良い漂白剤と、固形石けんを無料配布した。

この活動を通して、実際に使用した人たちの声が口コミで広まり、リピーターが来ることを願い、パンフレットには連絡先も掲載している。

(3) 今後の活動計画

私たち女性部は、今まで以上に活動の輪を広げ、子育て世代の集まるサークルなどに出向いたり、潮干狩りのお客様に推進したりして、環境問題を多くの方に知ってもらい、考えていただけるように活動していきたいと考えている。



図 11

また、海洋汚染が深刻な問題になっている今、年々海のプラスチックゴミ問題が深刻化している。

最近マイクロプラスチックという言葉をよく聞くが、プラスチックのゴミのうち大きさが5mm以下のものを指し、このような小さなプラスチックの破片や粒が世界中の海を汚して問題になっているようだ。

私たちの活動の中でも紹介した漁港での清掃活動では、環境問題に取り組んでいる川副中学校の2年生と一緒に漁港に漂着してきたゴミを拾い種類別に仕分け作業を行った。

中学生は漁港に漂着してきたゴミで川や海が汚染されたことでさまざまな生き物たちが苦しめられていることを実際の清掃活動を通して目にし、SDGsの達成のために自分はどんなことができるだろう、何をしたらいいのだろうか、再確認できた良いきっかけになったと思う。

この活動を通して自分の家族や友たち、身近な人たちへも環境問題の大切さを伝え、取り組んでもらえたらと思う。そしてまた今後も一緒に清掃活動ができればと思っている。最後になったが、これからも環境問題と真摯に向き合い、私たちにできることを考え、活動していきたいと考えている。また、次世代からその後の世代まで「豊かな海」を守り、安心して今後も変わらない海苔づくりができるように努めていきたいと思っている。



図 12



図 13